

清家正信 個展 「ものいふ花よべの雨」

Solo Exhibition by Masanobu Seike

2015.6.20 (Sat) — 7.4 (sat)

日、月 休廊 Closed on Sunday, Monday

12:00 — 19:00



BAR YUKI-SIS 6.27 (Sat) 18:00~

トークショー 清家正信 (写真家) x 平井和音 (作曲家)

聞き手 鹿毛康司 (クリエイティブ・ディレクター)

★ 入場料はいりませんが、ドリンクをお求めください

YUKI-SIS

東京都中央区日本橋本町 3-2-12 日本橋小楼 202 03-5542-1669

info@yuki-sis.com <http://yuki-sis.com>

3-2-12- #202, Nihonbashi Honcho, Chuoh-ku, Tokyo

103-0023, JAPAN +81(0)3 5542 1669



YUKI-SIS では、6月20日（土）－7月4日（土）清家正信個展「ものいふ花よべの雨」を開催致します。

映画、写真、コマーシャルなど、幅広い分野で活躍するカメラマン・写真家の清家正信は、彼のライフワークとして花、そして人のポートレート写真を撮り続けています。

花の一生。蕾をつけ、花としてこの世に咲き、やがて朽ち落ちるまで、清家は毎日、同じ時刻に観察し、撮り続けます。まるで人の一生のように、ただ存在し、呼吸し続けるその花の、一番美しい姿を見つめ毎日カメラに収めます。

昨今のデジタル技術の普及で、写真表現も目まぐるしく変わってくる中、今回清家が選んだ手法は、古典印画技法の「プラチナプリント」です。



「手を汚して作品をつくる」

プラチナプリントの技法が発明されたのは、1800年代後半のこと。プリント自体のクオリティーの高さにおいて、プラチナプリントに匹敵するものがないと言われるほど、現代においても写真ファンの中で高い評価を受ける古典印画技法です。

優れた耐久性と発色の美しさ、表現できる色の幅の広さなどの点から、写真家の間で注目されている手法ですが、その制作工程は極めて高度な技術、忍耐力を要求されます。

「優れた表現は、作り手の手を汚して作られている、ということに気づいたんだ」と清家は言います。

到達すべき最高地点を的確に捉える、作家の厳しい確かな目は、“the only one” を求めて、自己の作品をも客観的にジャッジし、試行錯誤を繰り返します。

長いキャリアの中で培った感覚と、極めて高度な古典印画技法を融合させ、清家が今回表現する世界は、「昭和の匂いのする時間」。今回の展覧会では、花と女性のポートレートを中心に、映画監督小津安二郎の世界観にも通ずる、静かな時が会場を流れます。

静かに横たわる時間。「想い」を胸に秘めたように見える被写体の表情と、花の佇まい。まるで現代から昭和の時代にタイムスリップしたような錯覚。しかし、時代を超えても人が感じる、溢れる想いは変わらず、花も同じようにただ咲いて散る。柔らかな風合いのプラチナプリントが、観るものが持つ記憶とリンクし、静かな感動を呼び起こします。

展覧会のタイトルである「ものいふ花よべの雨」は、この清家正信の写真作品を元に、作曲家として活躍する平井和音さんによって作られた曲のタイトルでもあります。

会期中に開催されるトークショーでは、清家正信、作曲家の平井和音さん、そして聞き手にクリエイティブ・ディレクターの鹿毛康司さんをお招きし、さらに音楽と写真をもとにした映像をお見せする予定です。

皆様のご来廊を心よりお待ちしております。